青森大学だより

2025 年（令和 7 年）
3 月号

発　行
青 森 大 学
広 報 室

〒030-0943
青 森 県 青 森 市
幸　畑　2 - 3 - 1
TEL 017 -738 -2001
FAX 017 -738 -0143

青森大学　検索
青森大学公式サイト

令和８年
４月から

# 新時代の学び ２学部に新コース

## 総合経営学部「地域マネジメントコース」
## ソフトウェア情報学部「インターフェースコース」

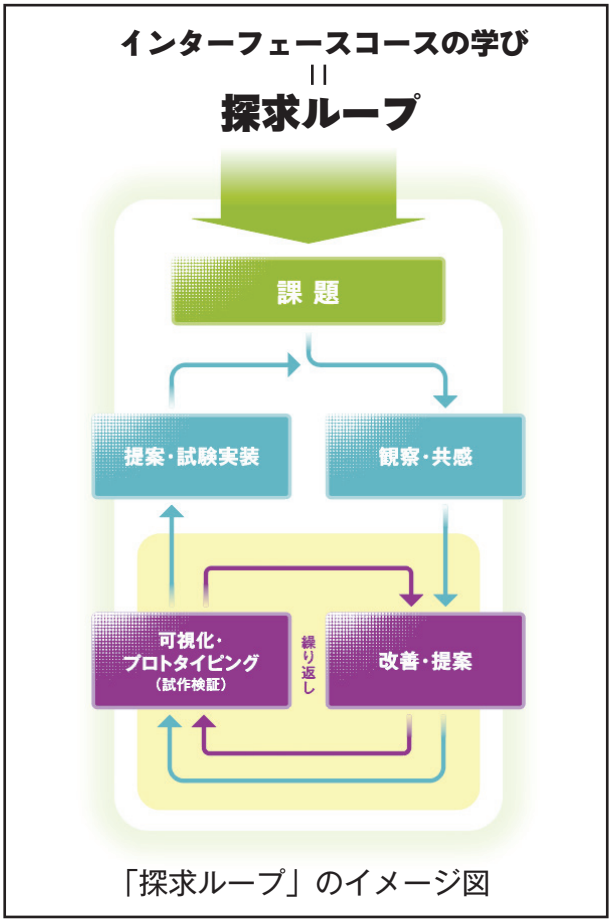
### 地域の課題解決力を養う

令和８年４月から総合経営学部とソフトウェア情報学部で新しい学びがスタートする。これまで社会学部が行なってきた、地域社会を取り巻く諸問題を分析しその解決策を探る学びに、「ビジネス・マネジメント」や「情報技術」の手法を加えて総合経営学部とソフトウェア情報学部へ発展的に継承される。

総合経営学部に新設される「地域マネジメントコース」では、人口減少やインフラの老朽化、自然災害といった社会問題に対して、社会調査やデータ分析を活用し、経営的視点から実効性のある地域づくりの方法を探る。フィールドワークやデータの具体的分析手法を学ぶ授業を充実させ、起業や自治体職員、シンクタンクなど、多彩なキャリアにつながる。

ソフトウェア情報学部に新設される「インターフェースコース」では、地域やビジネス、健康や多文化共生の中で抱える「課題」と「情報技術」の知識をつなぎ合わせる仕組みとして、デザイン思考に基づいた「探求ループ」を用い、これまで解決できなかった課題の解決や、より効率的な仕組みを構築できる人材の育成を目指す。

同コースには４つのモデルカリキュラムが用意されている。推奨科目を履修することで、自身の興味や強みを追求した学びを実現できる。



### 社会学部の募集停止、本学は3学部に

新時代へ向けた学びの再編に伴い、令和８年度の学生募集を停止する。

本学は、総合経営学部、ソフトウェア情報学部、薬学部の３学部となる。

### 未来考える人材育成

総合経営学部
学部長
前田　済

地域マネジメントコースでは、社会学部で実践されてきたノウハウに経営的手法を加味した知の統合により、企業・行政・地域と連携したデータに基づいた効率的な企業モデルや効果的な政策を提案する力を養います。

また、ビジネスイノベーション・会計コース、スポーツビジネスコース、フィールド・ツーリズムコースの視座からも総合的に捉え、持続可能な輝かしい未来像を考える人材を育成します。

### 文理交差の学びの場

ソフトウェア情報学部
学部長
黒田　茂

今日の社会では、複雑化する課題に対して柔軟かつ創造的な解決策が求められています。インターフェースコースは、理系と文系の異なる視点が交差する新しい学びの場です。本コースでは、地域やビジネス、健康、さらには多文化共生といった社会的課題を、情報技術の力を使って解決できる人材を育成します。

学問の枠を越えた実践的な学びを通じて、学生たちは社会課題に対する新たなアプローチを見つけ、未来を切り拓いていく力を養います。

### 柔軟な学びが可能に

社会学部
学部長
清川　繁人

今回の知の統合により、地方における少子高齢化や人口減少、地球温暖化などの諸問題に対応し、特定の専門分野だけに偏らず総合的で学際的な能力を修得させることを目的とします。同時に学生一人一人の能力を最大限伸ばすことによって、地域社会の発展の原動力となる優れた人材の育成を目指していきます。

さらに、在学生もこれまでの社会学の専門的な学びに加えて、知の統合による柔軟なカリキュラムの履修が可能となります。

# 「知の統合」と「文理融合」

## 経営的視点で地域課題分析

### 地域マネジメントコース

地域マネジメントコースは、経営的視点で地域課題を分析し、持続可能な地域づくりを目指す。青森をフィールドに多彩な手法で実践的に学び、企業・行政・住民と連携し解決策を導く力を養う。地域の発展に貢献し、学びを通じて新たな可能性を広げる。

同学部ではこれまでも、企業・行政・地域住民と連携した取り組みを展開してきた。

「青森大学ブランドの日本酒づくりプロジェクト」では、学部の学生がオリジナルの日本酒「純米吟醸青森大学」を、酒米の田植えから稲刈り、仕込み作業、ラベルデザインまでを地域の酒造会社、酒店と連携しながら展開している。本プロジェクトは令和4年度から継続して行っており、今年度で4年目となる。

なお、このプロジェクトは、青森大学の「あおりんプロジェクト」に認定されており、学生たちの思いを形にするための活動資金を提供する仕組みがあることも、本学の大きな特徴となっている。

ほかにも、地元企業である株式会社サンデーと連携し、青森県ならではの自然資源の有効活用や、子どもの学びや健康を支援する体験型イベント「あおもりSDGsワークショップ」を令和5年度から開催している。なお、本学は株式会社サンデーと令和6年度に連携協定を締結した。同社が大学と協定を締結するのは、本学が初だった。

今後も総合経営学部は、社会学部との「知の統合」により、学びと体験を通じて実践力を発揮できる人材の育成を目指す。更なる学びの進化が期待される。

## 情報技術の視点で問題解決

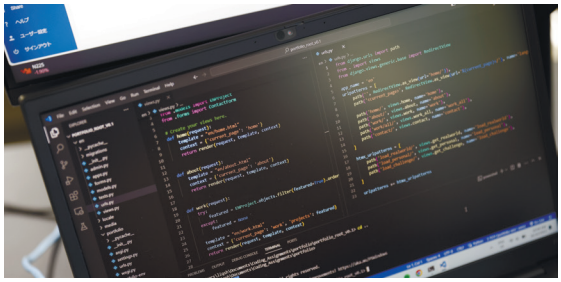
### インターフェースコース

インターフェースコースでは、理系と文系の異なる視点が交差するこれまでにない新しい学びを追求する。4つのモデルカリキュラムを設定しており、自身の興味や強みを追求した学びを実現する。

地域問題解決系カリキュラムでは、地域社会学や社会調査などの社会学の基礎を身につけながら、地域社会の課題をテーマとするPBLを通して実践的なスキルを磨き、ITを活用して地域社会の未来をつくる人材を育成する。

PBL（Project Based Learning）とは、課題解決型学習の略称だ。

健康課題解決系カリキュラムでは、福祉や健康に関する基礎科目を学びながら、それらに関する課題をテーマとするPBLを通して実践的なスキルを磨く。ITを活用した福祉の実現を通して地域社会の未来をつくる人材を育成する。

ビジネス課題解決系カリキュラムでは、経営戦略論や金融論、サービス産業論や経営組織論などの経営学の基礎を学びながら、地域のビジネス課題をテーマとするPBLを通して実践的なスキルを磨く。ITを活用したビジネスを通して地域社会の未来をつくる人材を育成する。

多文化共生系カリキュラムでは、多文化共生論や日本語論、英語やリーダーシップ論などを学びながら、多文化共生をテーマとするPBLを通して実践的なスキルを磨く。ITを活用したコミュニケーションの場の創出や仕組み作りを通して地域社会の未来をつくる人材を育成する。